

～ 第142回定期演奏会『井上道義 最後の火の鳥』よせて～  
薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. **94**  
《火の鳥》

会期／2023年5月26日(金)～6月29日(木)  
(※休館日はwebでご確認ください)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2023年6月16～18日、兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホールにて開催される第142回定期演奏会『井上道義 最後の火の鳥』によせた展示をお届けします。2024年の引退を宣言したマエストロ井上道義が、ついにPACとの最後の定期演奏会を迎えます。そのプログラムに選ばれたのは、鮮烈なリズムとハーモニーが炸裂するストラヴィンスキー。『火の鳥』では、ダンサー森山開次と本島美和が、華を添えられます。公演鑑賞のお供に、『火の鳥』およびストラヴィンスキーの貴重な資料の数々をお楽しみください。

『火の鳥』(Firebird/L'Oiseau de feu)

初演：1910年6月25日、パリ・オペラ座(フランス)

台本：ミハイル・フォーキン(ロシア民話による)

振付：ミハイル・フォーキン

音楽：イーゴリ・ストラヴィンスキー

美術・衣装：アレクサンドル・ゴロヴィーン

衣装：レオン・バクスト

出演：タマラ・カルサーヴィナ、ミハイル・フォーキン、他

『火の鳥』は、バレエ・リュス初のオリジナル作品。台本、振付、音楽、美術、衣装といった全ての要素を一から創り上げた。ストラヴィンスキー作曲の三大バレエ最初の作品であり(他は『ペトルーシュカ』1911、『春の祭典』1913)、彼の西欧デビュー作でもあった。

その稽古と初演の様子は、以下のように、『ディアギレフ・バレエ年代記1909-1929』(著：セルゲイ・グリゴリエフ/監訳：薄井憲二/平凡社/2014)にも、鮮やかに記されている。

『火の鳥』の稽古の様子(1910年4月頃)

(『ディアギレフ・バレエ年代記』p.37より)

フォーキンは『火の鳥』から稽古を始めた。他の作品に比べていちばん手がかかりそうだから。ストラヴィンスキーは初めて踊り手たちに紹介された。フォーキンはちょうどバレエの中程から稽古を始めた。ストラヴィンスキーが“悪鬼の騒ぎ”と呼んでいた個所だ。最初の数小節を聞いてだけで踊り手たちは慌てた。メロディーがないし、マリインスキー・バレエで踊っていた音楽とはまったく違う。音楽とはいえない

いと言う踊り手もいた。ストラヴィンスキーはいつも稽古に付き合っ、テンポとリズムを指示した。ときにはそのメッセージを自分で弾いて聞かせもした。踊り手に言わせると、「ピアノが壊れるかと思った」そうだ。ストラヴィンスキーはリズムに興奮してくると、大音響でピアノを叩き、自分でも声で音をなぞり、指がどのキーに落ちようと気にならなかった。ストラヴィンスキーの暴発は皆に伝染した。フォーキンの振付のあと押しもした。この非凡な音楽は、フォーキンが独創に満ちた踊りをつくる助けともなった。ユニークな踊りは喜びでもあり楽しみでもあった。

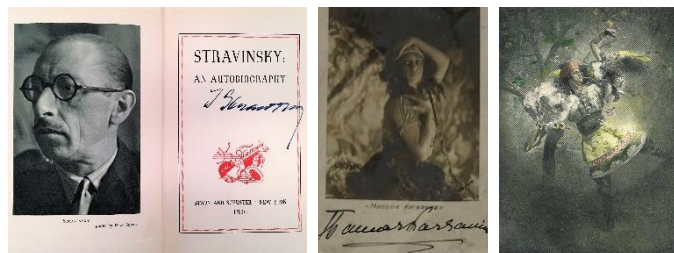
『火の鳥』の初演の様子(1910年6月25日)

(『ディアギレフ・バレエ年代記』pp.44-45より)

パリでは特別な日だった。若い未知の作曲家の音楽は特に好奇心を呼んだ。フォーキンの振付は今回もパリを驚かし、ゴロヴィーンのお伽噺風の美術が魔法の空気を醸し出す。(中略)カルサーヴィナの火の鳥は比類のないでさ栄えだった。腕の、頭の、体全体の動きには気品が漂い、抗し難い魅力だ。彼女にはぴったりの役柄である。(中略)全体として見れば、皆の努力は報われた。コール・ド・バレエはよく踊り、指揮者のガブリエル・ピエルネも含めて全員に向けられた喝采は盛大だった。翌日の新聞には『火の鳥』についての大きな記事が出て、フォーキン、ストラヴィンスキー、ゴロヴィーンの協力の成果が賞賛された。ストラヴィンスキーについていえば、彼は名を成した。ディアギレフは当然のことながら、自らの見識を誇った。この瞬間からストラヴィンスキーとディアギレフの関係が確立し、それは長く続いた。

出展資料

- ◆ BK-171-bio-ws 書籍(署名入り)/イーゴリ・ストラヴィンスキー著/『自伝』/アメリカ/1936年
- ◆ PC-B-68-9ws 葉書(署名入り)/タマラ・カルサーヴィナ/『火の鳥』/イギリス/1912年
- ◆ PC-B-68-7 葉書/タマラ・カルサーヴィナ&アドルフ・ボルム/『火の鳥』/イギリス/1912年
- ◆ PC-P-10 葉書/タマラ・カルサーヴィナ/『火の鳥』/ジャック＝エミール・ブランシュ画/フランス/原画1910年頃
- ◆ CL-149 切り抜き/タマラ・カルサーヴィナ/『火の鳥』/『ザ・スフィア』誌/イギリス/1910年7月9日
- ◆ ST-BL-73-6 切手/ユリア・マハリナ&アンドリス・リエパ/『火の鳥』/タンザニア/1990年代



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用